

## ① ブラッシング

愛犬の皮毛を清潔に保ち血行を促すことにより、新陳代謝を活発にしますので、スキンシップを兼ねて毎日行う事をおすすめします。ブラシを犬の体に対して平行に当て、毛の流れに沿って全身をとかします。

ブラッシングは皮膚をマッサージする意味もありますので、表面だけとがして終わりにせず、ブラシのピンの先をきちんと皮膚に当てるのが大切です。

ただし強く当てすぎると皮膚を傷つけてしまうことがあるので注意しましょう。

★ 忘れやすい所: 口まわり・あご下・わきの下・太腿の内側

## ② コーミング(クシ入れ)

ブラッシングが終わったら、全身にコーム(クシ)を入れます。

クシ歯が引っかかる所は毛玉がある証拠ですので、クシが通るようになるまでスリッカー等でとかし直すか、刈で優しく丁寧にとかしましょう。

力まかせに引っ張って取ろうとすると、犬に痛い思いをさせてブラッシングが嫌いになる原因になってしまいます。

★ とかしても毛玉が取れない場合はトリミングサロンに相談しましょう。

### ワンポイントアドバイス



○目や口まわりはコームを使用するとやりやすいです。

○ピンブラシは、ピンが柔らかく先端が丸いのでマッサージに最適です。

○スリッカーはピンが硬めで「く」の字にまがっているため、死毛を取り除くのに適していますが、先端が針のように尖っているため、強く当てすぎないように気を付けましょう。

## ③ シャンプー&ドライ

**準備:** シャンプーをする前にブラッシングを行うと汚れが落ちやすくなります。

また、毛玉をしっかり取り除いておく事も大切です。毛玉が残ったまま洗ってしまうと、毛玉がよりひどくなってしまいます。

**洗う:** 体を十分に濡らしてシャンプー剤をつけ、毛の表面の汚れを洗ったら、いったん流します。その後もう一度シャンプー剤をつけて泡立たせ、指の腹で皮膚をマッサージしながら洗い、汚れを落とします。最後に毛の長い犬種にはリンスまたはトリートメントをしましょう。

**乾かす:** タオルで十分に水気を拭き取った後、ピンブラシやスリッカーでとかしながら行います。

ドライヤーをかける時は、必ず温度を確認しましょう。

自分の手に風を当て、熱いと感じるほどドライヤーを近づけないように、最低でも20cm~25cmくらいは離しましょう。

### ワンポイントアドバイス



○毛だけではなく、皮膚までしっかり洗う事が大切です。

○特に足先やお尻まわりは汚れているので、洗い残しに気を付けましょう。

○皮膚のトラブルの原因に繋がりますので、シャンプー剤は、5分シャンプーしたら10分洗い流すくらいの気持ちでしっかりすすぎましょう。

また、皮膚に負担をかけたくない場合は、スポンジ剤を薄めて使う事をお勧めします。

○乾かし残しに注意しましょう。始めに乾かす手順を決めておくといでしょう。一カ所を完全に乾かしてから次の部位へ移るようにすると、乾かし残しを防ぐことができます。



#### ④ 耳そうじ

耳の中はデリケートなので、自宅でお手入れをする場合は見えるところまでにしてください。

コットンや綿棒にイヤークリーナーをつけ、そっとやさしく拭き取るような気持ちで汚れを落として下さい。

##### ワンポイントアドバイス



- 強くこすらないようにしましょう。
  - 綿棒を使う場合は絶対に奥まで入れないようにしましょう。綿棒を使い知らず知らずのうちに耳の中の皮膚を強くこすったり、奥まで差し込むことで炎症を引き起こしトラブルの原因になります。
- 耳の奥のそうじや汚れのひどい場合は、獣医さんに相談しましょう。

#### ⑤ 爪切り

犬の爪には血管が通っています。白い爪の場合、血管がピンクに透けて見えるので、血管より3mmぐらい手前でカットします。血管の見えない黒い爪の場合は、犬を立たせた時に床につかないくらいにカットします。

##### ワンポイントアドバイス



- 一気に短くせずに先の方から少しずつ切っていくましょう。
- 一度痛い思いをすると、爪切りが嫌いになってしまうので、絶対に無理をせず、できなかったら獣医さんやトリミングサロンにお願いしましょう。

おうちでできる

## 愛犬のお手入れ



峡東地区 動物愛護推進員